



第 35 回

# インターゲノミクス セミナー

神戸大学大学院・農学研究科  
インターゲノミクス研究会 主催  
(若手研究者育成支援経費)

日時：1月19日（火）15時10分より 場所：農学部 B101

## 「植物の環境適応戦略： 進化の過程で獲得した巧妙なメカニズム」

15:10 はじめに

### 15:15 植物の成長を制御する葉緑体型緊縮応答

増田 真二 先生（東京工業大学 バイオ研究基盤支援総合センター）

要旨内容：葉緑体は、光合成、アミノ酸合成、核酸合成、脂質合成など植物の成長に必須の役割を果たすオルガネラである。最近の研究により、緊縮応答と呼ばれる細菌に普遍的に保存されている遺伝子発現制御・代謝調節に関与する酵素の遺伝子が植物のゲノムに保存されており、それらは、葉緑体の機能制御を通じて植物の成長を統括的にコントロールしていることがわかってきた。本セミナーでは、シアノバクテリアの細胞内共生時に植物細胞に導入されたと考えられる葉緑体型緊縮応答の機能について紹介したい。

### 16:15 基部植物ゼニゴケから考える植物の繁殖戦略

石崎 公庸 先生（神戸大学大学院 理学研究科）

要旨内容：固着性の生活をおくる植物は、刻々と変化する環境に応じて適切な繁殖戦略を進化させてきた。例えば多くの植物は、日長を感知することで季節に応じて花を咲かせ有性生殖を行う。また有性生殖に適さない環境や季節に備え、根・茎・葉といった栄養器官から直接クローン個体をつくる栄養繁殖とよばれる仕組みをもつ植物も多く存在する。このような植物の柔軟な繁殖戦略はどのように獲得され進化してきたのだろうか？本セミナーでは、陸上植物進化の基部に位置するゼニゴケにおける、光周性に基づく生殖成長への転換や栄養繁殖の分子機構についての研究成果を紹介し、陸上植物の柔軟な繁殖戦略の原型と進化について議論したい。

17:15～ 総合討論

世話人：松岡大介・池田健一

お問い合わせ 李 智博（農学研究科 資源生命科学専攻 発生工学研究分野）  
TEL: 078-803-6581 E-mail: leej@tiger.kobe-u.ac.jp